仲間遺跡緊急発掘調査（2026）現地説明会

○はじめに

糸満市教育委員会では、沖縄県中部農林土木事務所の委託を受け、真壁東第２地区の土地改良事業に伴う仲間遺跡の緊急発掘調査を実施しています。



仲間遺跡範囲図（赤枠：調査箇所）

○仲間遺跡について

仲間遺跡は字真壁の北東側丘陵地帯に分布しています。遺跡周辺には拝所が点在しており、グスク時代（12 世紀頃～16 世紀頃）から近世（17 世紀頃～19 世紀頃）にかけての遺跡とされています。

○調査内容と成果

調査は調査区１（9 月 28 日～現在実施中）と調査区２（8 月 4 日～9 月 25 日）の２箇所で実施しています。

【調査区 1】

調査区の北側で建物跡等に伴う柱穴（ちゅうけつ）や土坑（どこう）を確認しており、柱穴の一部は建物のラインが推定できるものがあります。また、柱穴の一部を半裁し断面と底面を確認したところ、炭と焼土が集中的に検出されるものがあり、炉跡（ろあと）に伴う柱穴の可能性が考えられます。遺物は遺構検出時と半裁時にグスク土器、陶磁器（中国産青磁や沖縄産陶器など）、類須恵器（カムィヤキ）、金属製品が出土しています。

【調査区 2】

表土掘削を行ったところ、調査区全体で南北方向に谷状地形が確認され、グスク土器や陶磁器（中国産青磁や沖縄産陶器）、石器等を含んだ遺物包含層の堆積を確認しました。また、調査区の北側ではクチャの地山面から鍬跡（くわあと）や溝状遺構を検出しており、耕作に伴う遺構の可能性が考えられます。

（主な遺構用語集）

・柱穴⇒住居や倉庫、土地を区画する柵などの柱を立てた際の穴。
・土坑⇒食糧保存（貯蔵穴）やごみ捨て場（廃棄土坑）などの穴の総称。用途不明の土坑もあります。
・炉跡⇒煮炊きなど火を焚いた場所に残る遺構。



調査区 1：遺構検出状況（建物 3）



調査区 1：遺構半裁状況（柱穴№305：炭集中部）



調査区 1：遺構半裁状況（柱穴№25）



調査区 1：遺物検出状況（カムィヤキ、ニービ）



調査区 2：遺構検出状況（鍬跡）



調査区 2：遺構検出状況（溝状遺構内石列）



調査区 2：遺構半裁状況（鍬跡）

○まとめに

今回の調査で検出された遺構の形態や出土遺物から、本調査地はグスク時代から近世にかけての集落遺跡と考えられます。より詳細な遺跡の年代や性格については、県内・外の他遺跡発掘調査成果との比較や出土した遺物、遺構内の土壌サンプルの分析、文献史料などから検討していく予定です。